



学生が集う街・玉川学園。その一角に誰もがふらっと立ち寄れる居場所がある。  
木村真理子さん、船生みどりさん、翁真由美さんに居場所づくりの活動について聞いた。

左から木村さん、船生さん、翁さん。

### 活動を始めたきっかけは？

**木村：**建築やまちづくりの仕事に携わっていて、関係者が多く住んでいることもあり、引っ越してすぐにまちづくりの活動に誘われました。人が温かく、活動が盛んな地域性にも引き込まれた感じですね。

自分も多少は貢献しないと、という気持ちで「NPO 法人玉川学園地区まちづくりの会」で住環境整備の活動を続けています。仕事柄を活かして、地域が良くなるように何か仕掛けたいという気持ちも大きいです。まちづくり活動の一環として、町内会の幹事をするようになったこともあります。

**船生：**熱心な方が多い地域ですね。私が地域と関わるきっかけは、南大谷中学校の父母と教職員の会からの選出で児童館の立ち上げに向けて活動していた青少年健全育成玉川学園地区委員

会（以下、青少健）に参加したことです。その後、青少健の会長の立場で地区協議会（以下、地区協）の立ち上げに関わりました。木村さんとは立ち上げの頃から一緒にいて、広報も2人で担当していました。その後任を翁さんに。

**翁：**はい、近所に住んでいるママ友の紹介でお声かけいただきました。それまでは学校行事や子どもの野球チームの運営にできる範囲で関わっていました。学生時代に社会学を学び、どこかで地域活動に携わりたいと思っていたのかもしれませんが。

### 皆さんが携わっている地区協議会の活動を教えてください。

**翁：**広報は今年で6年目になります。また、桜実会や高齢者支援センターと連携して認知症の啓発活動「キバナコ

スモスのプロジェクト」や木村さんと一緒に空き家を活用した「多世代の居場所づくり」に携わっています。

**木村：**「多世代の居場所づくり」では、近所の方がふらっと寄って、よもやま話ができる場所があったらと思い、昨春から「えんがわカフェ」をスタートしました。困りごとなどを関係する福祉機関につないだり、情報交換の機会にすることも目的です。こういう場所ができて良かった、ありがとうと言われてもらえました。徐々に利用者が増えてホッとしています。交流を通して私も元気ももらっていますね。

**翁：**みんなの居場所になるようにと作ったこの場で出会った人がつながって、サークルができたり。地域でつながりが広がっていくのが嬉しいですよね。人と会って話すことが活動の原動

力になっています。

**船生：**今は、地区協にも事業申請している玉川学園地区社会福祉協議会の「玉ちゃん図書室」という図書室を通した多世代の交流や居場所づくりを行っています。地区協のネットワークで「えんがわカフェ」にも出張本棚を配置させていただいています。活動を通して子どもと触れ合える楽しさが魅力ですね。

### 活動を通して思うこと、今後の展望は？

**船生：**活動を知った人が運営に参加してくれることもあり、徐々に輪が広がっています。潜在的に地域活動をした人はいっぱいいたんだと感じました。女性の社会進出が進んで、核家族化で子育ての仕方も変わってきていて。これまでと同じように活動を引き継ぐこ



えんがわカフェの様子。  
1 「キバナコスモスプロジェクト」をモチーフにした刺繍 2 玉ちゃん図書室の本棚  
3 えんがわカフェでお話する皆さん

とが難しくなっているので、若い人たちが新しいかたちを考えてもらえると良いですね。

**木村：**インターネットでうまくつながれば、ちょこっとだけでも活動できる人はいるかもしれませんね。地域でやってみたいことを考える「地区ミーティング」が始まって、より新しい人が入りやすい環境が整ってきました。人とのつながり方や物事の決め方など、若い人との関わりは年齢の高い方への良い刺激になっています。

**翁：**若いお母さんたちも、できることから活動始める人が増えていますよね。

**木村：**そうですね。SNSの使い方も上手で、うまく連携をとりながら進めています。「やってください」ではなく、みんなと一緒に進めていくことで、

もっと地域が良くなればと思います。

**翁：**活動する人同士が気軽に情報交換したり、お互いの取り組みで協力し合えるといいですね。地区協でやってみたいことを気軽に相談したりとか。私はまず、広報の部分で、他の活動をする方と協力してみたいです。

**船生：**なかなか一人ではできないので、ちょっとでも気になる事業があったら気軽に見に来てほしいです。地区協が窓口になって輪が広がると良いですね。



えんがわカフェの庭にあるたぬきの置物。